

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。

某声午眠を破る

破 某
眠 醒
午

成瀬映山先生

参考手本

※これは規定課題ではありません。



村深く午鶴を報ぐ

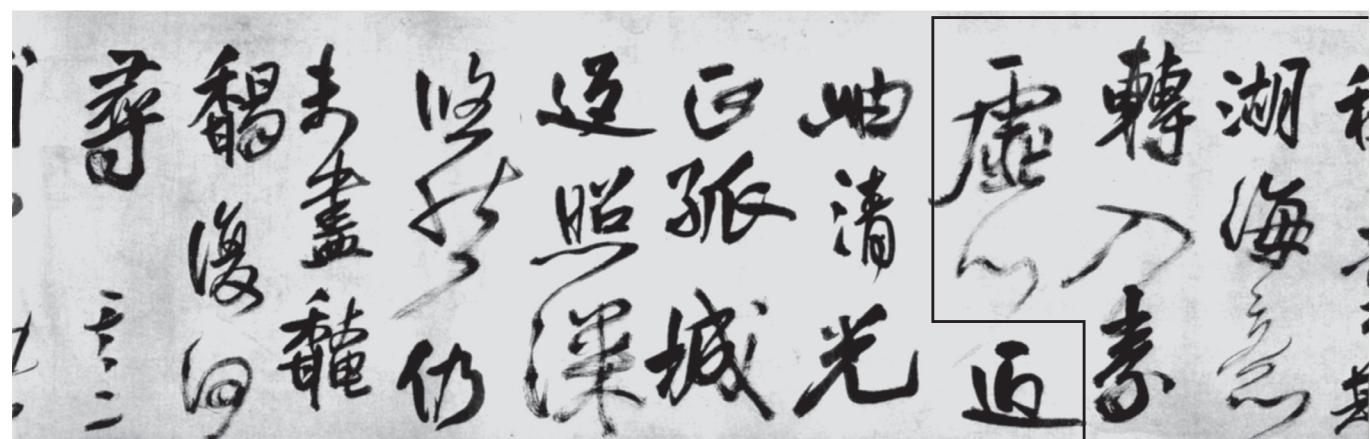
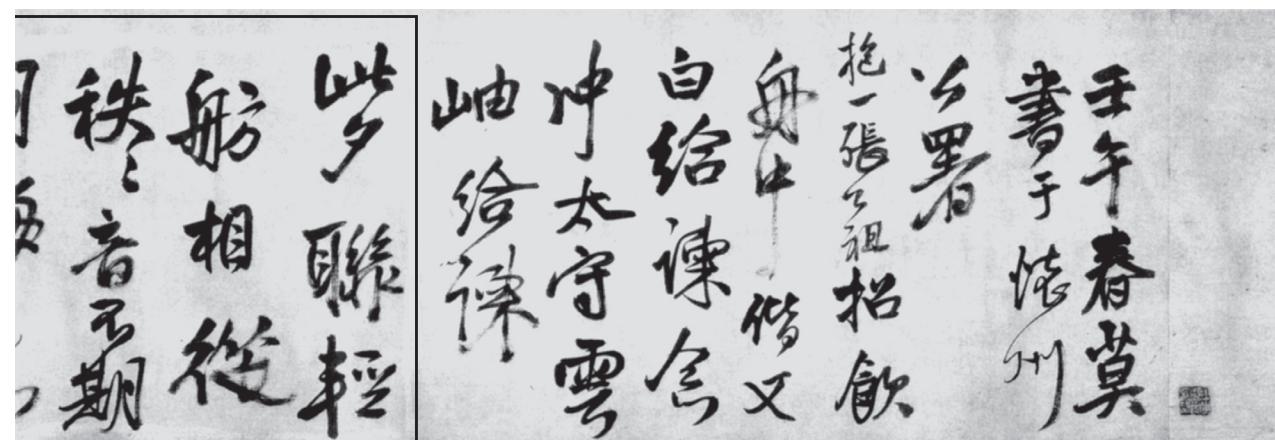
高木聖雨先生

条幅規定

A部(準五段以上)
B部(四段～準三段)

王 おう
鐸 たく

「行書五律五首卷」①



【行書五律五首卷】

壬午春暮。書于懷州
公署。抱一長公祖招きて舟
飲舟中。偕又白給諫
念冲太守雲岫給諫。

壬午の春暮、懷州の公署に
書す。抱一長公祖招きて舟
中に飲む。又白給諫・念冲
中に飲む。又白給諫・念冲
太守・雲岫給諫と偕なり。

*
此夕聯輕舫

此の夕 輕舫を聯ね

相從秩秩音

相い従う 秩々の音

不期湖海意

期せず 湖海の意を

轉入素虛心

転たに入る 素虚の心に

近岫清光正
孤城返照深
悠然仍未盡
孤城返照深
懿然仍未だ尽くさず
懿鶴復た何にか尋ねん

近岫 清光正しく

孤城 返照深し

悠然 仍お未だ尽くさず

懿鶴 復た何にか尋ねん

其一

其一

其一

【今月の課題】

「此夕聯輕舫相從秩秩音不期湖海意轉入素虛心」(20字)

(この課題を同月の条幅随意には出品出来ません)

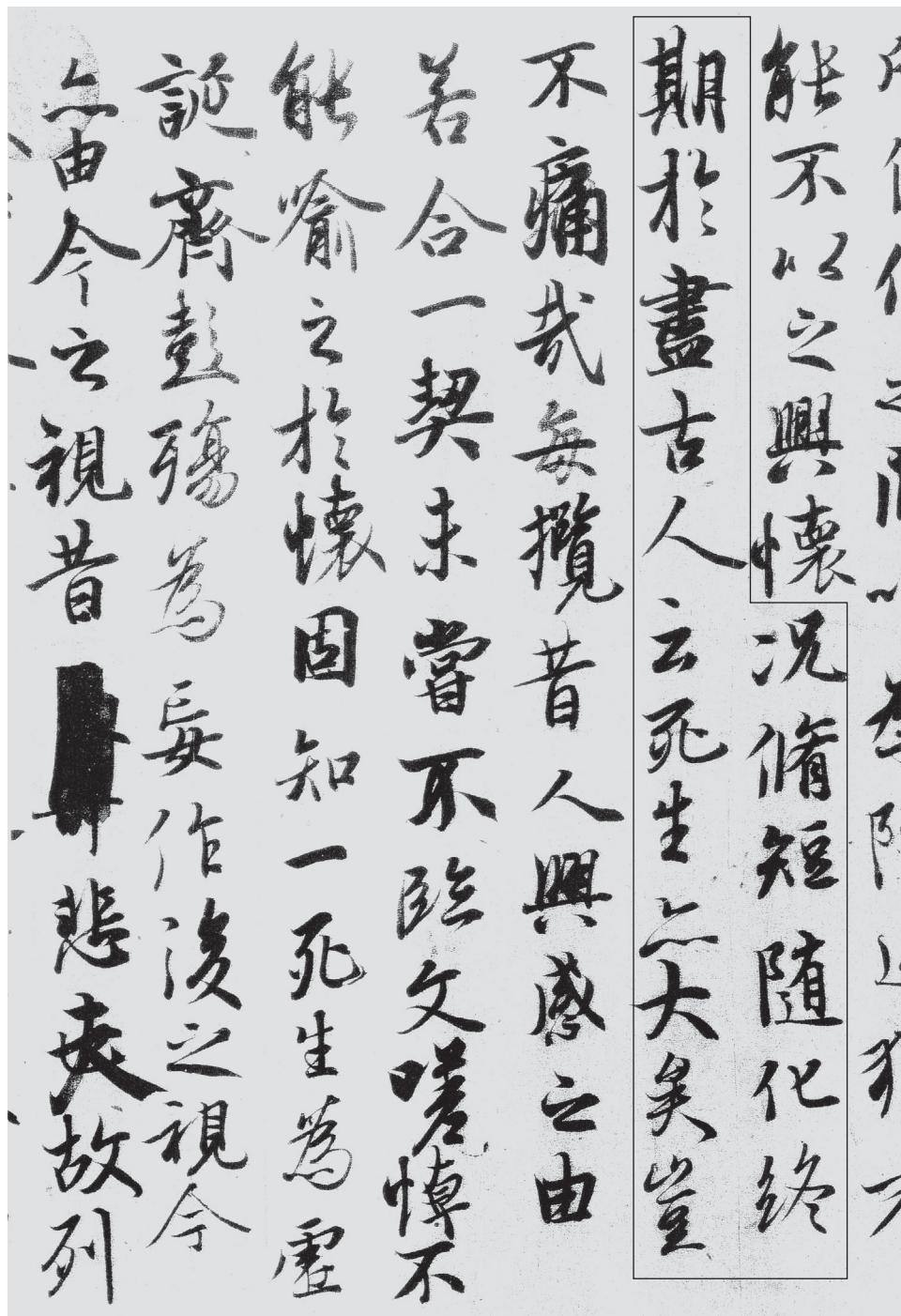
条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く
段・級を記入して下さい

(7月10日締切)

条幅規定

C部(二段以下)

『蘭亭叙』 王羲之 (東晋)



能不以之興懷。況脩短隨化終期於盡。古人云。死生亦大矣。豈不痛哉。每覽昔人興感之由。若合一契。未嘗不臨文嗟悼。不能喻之於懷。固知一死生爲虛誕。齊彭殤爲妄作。後之視今。亦由今之視昔。悲夫。故列

之。以。懷。興。ざ。ざ。る。能。わ。ず。況。ん。や。脩。短。は。化。に。隨。い。終。に。尽。くる。に。期。する。を。や。古。人。云。う。死。し。生。も。亦。た。大。な。り。と。豈。に。痛。ま。しからず。や。毎。に。昔。人。興。感。の。由。を。攬。る。に。一。契。を。合。す。が。若。し。未。だ。嘗。て。文。に。臨。で。嗟。悼。せ。づ。ん。ば。あ。ら。ず。之。を。懷。に。喻。す。能。わ。ず。固。よ。り。死。生。を。一。に。す。る。は。虚。誕。た。り。彭。殤。を。齊。し。く。す。る。は。妄。作。た。る。を。知。る。後。の。今。を。視。る。も。亦。た。由。お。今。の。昔。を。視。る。が。ご。と。し。悲。しい。か。な。

(7月10日締切)

期盡死豈

【今月の課題】「況脩短隨化終期於盡古人云死生亦大矣豈」(18字)

〔この課題を同月の条幅隨意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

半紙規定(二)

下
微
察
厥
厥

九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔一級以下〕楷書

下に躊躇す。俯して厥の土を察するに。
微かに

半紙規定(一)

嘉
慕
王
顥
等
嘉
慕
王
顥
等

下
廟
察
厥
厥

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

曹全碑（漢・作者不詳）

王顥等嘉慕

[この課題を同月の半紙随意には出品出来ません]
(7月10日締切)

条幅参考本

長澤 豊雲先生

領得烏紗帽全勝白接羅山
人不照鏡稚子道相宜

圭

領得烏紗帽

全勝白接羅

山人不照鏡

稚

子道相宜

烏紗帽を領得して 全く白接羅に勝る

山人は鏡に照らさざるも

稚子は相宜しと道う

下村紫雲先生

人間桂花落 夜靜春山空 月出驚山鳥 時鳴春澗中
人間にして桂花落つ 夜 静かにして春山空し 月出でて山鳥を驚ろかし 時に春澗の中に鳴く

条幅かな

なびき寄る雲のすがたのやはらかさけふ富士が嶺の夕まぐれかな（若山牧水）

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左側下部に添え書きして下さい。



浮 乘 清 鄉 先 生

条幅参考本

勸君金屈卮 満酌不須辭 花發多風雨 人生足別離

君に勧む金屈の卮 満酌辞するを須いざれ 花発けば風雨多し 人生別離足る

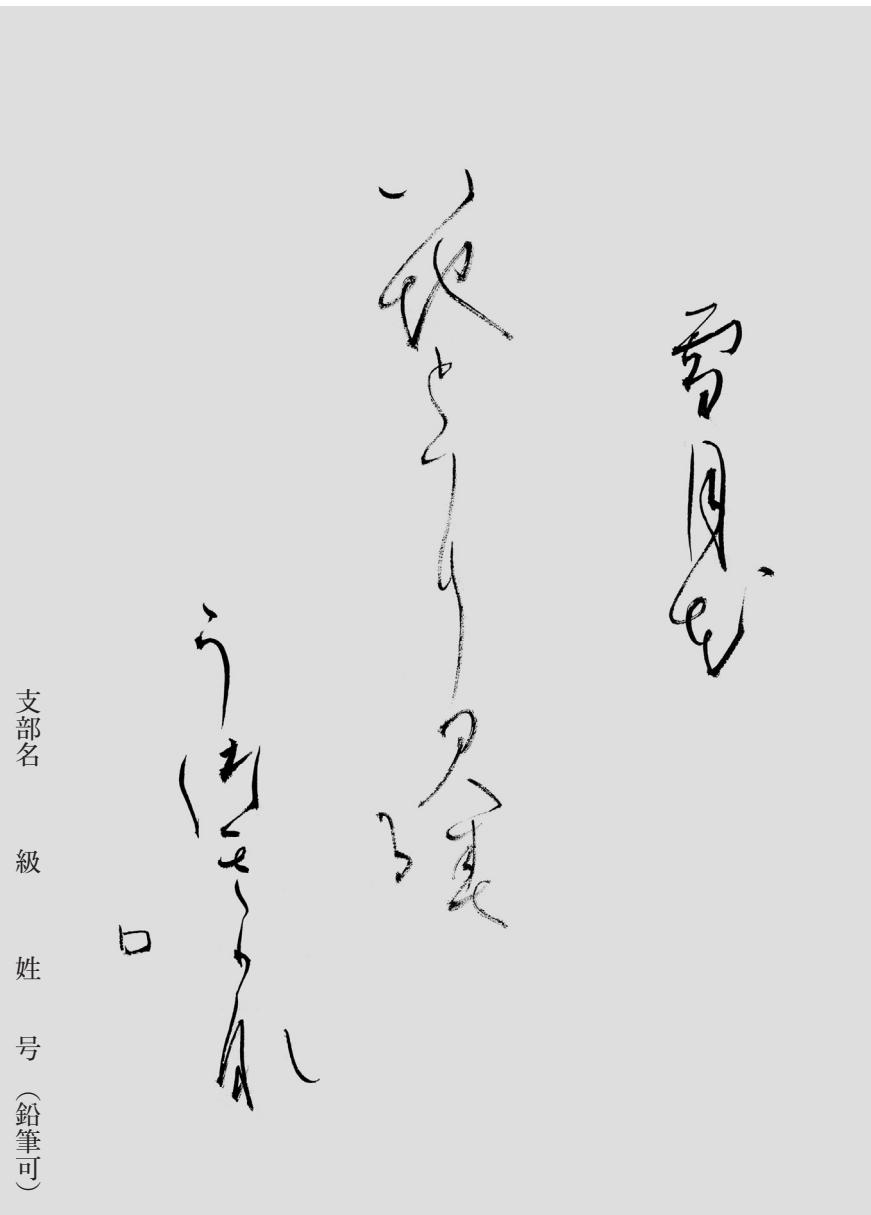


石 田 輝 仙 先 生

(7月10日締切)

半紙かな(1級以下)

雪月花いちどに見するうつぎかな
地耳春徒可那
(松永貞徳)



※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな(初段以上)

ふるさとのかの路傍のすて石よ今年も草に埋もれしならむ (石川啄木)
※ちらし文字変換は自由



実用文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

支部名 段級 拙号

氷雨が村を濡らしてすき北に
雲は象牙のやうに光る野を
来る風が刃物のやうに鋭くな
つたこんな日暮だ

渡邊南嶂先生

新美南吉詩「氷雨」より

(7月10日締切)

細字

繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋
繼世曆年悠揚千秋

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級以下は草書まで。 初段以上は隸書まで。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

悠揚 ゆつたりとこせくしない。

※名前は楷書以外では違反になります。

暦継
れきけい

年世
ねんせい

としつき。
世々うけつぐ。

硬筆（1級以下）

2行、楷書

支部

級

姓

号

高原植物の可憐な花が野鳥のせ
えずりに合せて小さく揺れた。

硬筆（初段以上）

3行、行草書

拝啓 そろそろ梅雨入り、ご一緒に

学取りをした貴女の家庭菜園は
今年どんな気合ですか。

支教名

系

姓

号

田辺翠鶴先生

梅雨・草取り・菜園・具合…。

青柳江雲先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

(7月10日締切)

中2用

古都の千年

支部名

段級

名

前

中3用

人類の進歩

支部名

段級

名

前

大越三宗先生

小6用

和の色調

支部名

段級

名

前

中1用

生活の反省

支部名

段級

名

前

渡邊南嶂先生

(7月10日締切)

小4用

支部名
段級
名前
考
る
力
え

小5用

支部名
段級
大越三宗先生
守
海
を
と
る

大 越 三 宗 先 生

小2用

支部名
段級
名前
ツ
バ
ケ

小3用

支部名
段級
鈴木翡翠先生
リ
虫
と
り

鈴木翡翠先生

(7月10日締切)

中 1

転校した友人が、学校の写真を送つてきた。

中 2

立派な人材も確かに指導者がいてこそ生きる。

中 3

有限な地球資源を、果的に節約しよう。

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

鈴木翡翠惠先生

中1～中3

青柳江雲先生

小1・幼年

げんきなこえで、ようございます。

雨あがり、まり、あじさい。

小 3

みどりの森の中を歩くのは、気持ちよい。

小 4

向かいの家からピアノの音が聞こえてくる。

小 5

今日は、朝から暑くはない。

小 6

田植えがすむと、一面が緑一色になります。

小1～小3

田辺翠鶴先生

小4～小6

齊藤翡翠先生

流先生

(7月10日締切)

小学部小筆課題

中学部かな課題

支部名

段級

名前

打ち寄せる
白い波

主幹 菅野翠濤

支部名

段級

名前

蝶の音
すずめ

船久保棠苑先生

半紙半分に書いて下さい (7月10日締切)

半紙半分に書いて下さい

8月10日締切課題予告

中三規定	真夏の天空	中三硬筆	梅雨が明けてようやく夏。炎暑の盛夏である。
中二規定	夏空天の川	中二硬筆	真夏の太陽、入道雲が青空にもり上がる。
中一規定	金魚の群れ	中一硬筆	中学生時代の思い出に、白馬岳に登った。
小六規定	地上の星	小六硬筆	夏休みには、物語、伝記などの本を読みたい。
小五規定	美しい湖	小五硬筆	雨のため、楽しい遠足が、中止になった。
小四規定	七つの海	小四硬筆	テントの外に出て、美しい星空を見あげた。
小三規定	竹うま	小三硬筆	夕立ぐも、虫とり、あさがおの花、なみ音。
小二規定	アイス	小二硬筆	なつ休みに、かぶと虫のかんさつをします。
小一規定	なつ	小一硬筆	ひまわりのおおきなはながさいた。
小学部かな	木がくれて茶つみもきくや時鳥		
中学部かな	佐渡の島に おかげ流し		

A部条幅規定	近岫清光正孤城返照深悠然仍未盡蘊蓄復何尋
C部条幅規定	不痛哉每攬昔人興感之由若合一契未嘗不
かな条幅規定	こひしさはおなじこころにあらずともこよひの月を君見ざらめや (源信明)
半紙規定(初段以上)	奚斯考甫之
半紙規定(二級以下)	覺有潤因而
半紙かな(初段以上)	沖つ風吹きにけらしな住吉の松のしづ枝を洗ふ白波 (源経信)
半紙かな(一級以下)	露のみきしづかに蟬のあるきをり (高浜虚子)